

## 河北新報社「むすび塾」と連携し「ぼうさい探検隊」を実施

～仙台市福室児童館の子どもたちが参加～

日本損害保険協会東北支部（委員長：西山 喜和・三井住友海上火災保険株式会社 執行役員 東北担当）では、この度、河北新報社の防災ワークショップ「むすび塾（※1）」とコラボレーションし、宮城県仙台市宮城野区の仙台市福室児童館に通う子どもたちと当協会の防災教育プログラム「ぼうさい探検隊（※2）」を実施しました。

10月17日（金）に行われた探検は、身を守る行動に関心を持ってもらうために、福室小学校1～5年生の児童18名が参加し、地域町内会関係者、仙台市地域防災リーダー、災強のすけっと（東北と北陸の大学の医学部生らでつくる団体）のメンバーが運営をサポートしてくれました。子どもたちは、3班に分かれてまち歩きを行ったあと、気づきをマップにまとめて発表しました。

まち歩きでは、災害時危険なもの（自販機、ブロック塀、側溝、マンホール等）や役立ちそうなもの（防災倉庫、避難場所、防火水そう、公衆電話等）を自分の目で見て、自分の耳で聞くことにより、自分たちが普段生活しているまちの安全・安心についての認識を深めました。

ぼうさい探検隊を通して、「災害が発生したときにどうすれば命を守れるか」、子どもたち自身で考え行動できるきっかけになったものと思われます。

本探検隊の様子は、10月18日付けの河北新報でも掲載されました。詳細版は、11月の河北新報で掲載予定です。当支部では、今後も地域の関係機関と連携し各種防災教育の普及啓発に取り組んでまいります。



まち歩きで防火水そうを発見



サポートメンバーからアドバイスを  
受けながらマップを作成



仙台市福室児童館  
伊藤館長からの総評

### （※1）むすび塾

河北新報社が主催しているワークショップ。東日本大震災の教訓を今後の備えに生かすため、宮城県内外で地震、津波の際の避難の手法などを地域住民と一緒に考え、行動を後押しする取り組みを行っています。2012年からスタートし、今回で通算123回目。

### （※2）ぼうさい探検隊

防災教育の取組みの一環として、子どもたちが楽しみながらまちにある防災・防犯・交通安全に関する施設や設備などを見て回り、身の回りの安全・安心を考えながらマップにまとめ発表する、実践的な安全教育プログラム。2004年度から実施し、今回で第22回。自治体や行政等への提言により実際に危険箇所が改善された事例もあり、地域防災力向上の一助になっている。